

社団法人東京電機大学校友会

千葉県支部だより

第15号

平成24年5月1日

社団法人東京電機大学校友会
〒120-8551 東京都足立区千住旭町5番
一号館2階
TEL 03-5284-5140
FAX 03-5284-5187

支部だより第15号発行にあたり



支部長 松本 宏

この度ここに「千葉県支部だより第15号」を発行する運びとなりました。これも、偏に関係各位のご理解・ご協力そして、ご指導の賜物であり、改めて御礼申し上げます。

さて、暦を紐解きますと、今年の干支は「辰（はらむ）のえのたつ」とのことです。妊（はらむ）と言つ意味があり、冬の間に、やがて来る春のために草木の根や種が土の中でじつと耐えている状態を表現しています。この事は、これから新しい物事が生まれてくる準備が整った状態、次につながる成長が始まる年と言えます。

「辰」または「龍」は十二支の中で唯一架空の動物です。昇り竜などと宮殿其の他に画かれています。我が母校もこの年に「東京千住キャンパス」を開校します。正に昇り竜の様に、発展して欲しいと心から願っていると共に応援して行きたいと思えます。

素晴らしいキャンパスが完成しました。タイトルは「理工系のトップランナーを自指す」であります。そこで、今回の支部総会は「この東京千住キャンパスで開催する事に致しました。6月9日（土）午後2時より、第42回通常総会」続いて「新キャンパスの見学会」「懇親会」を実施致します。見学会と懇親会は「埼

玉県支部」と合同で企画しております。是非大勢の卒業生の方が参加される事を期待しております。又、足立区の広報で、「よっこそ東京電機大学」を表紙として、5大学（当校・東京芸術大学・帝京科学大学・東京未来大学・放送大学）周辺の商店街めぐりを紹介しています。足立区あげての歓迎です。尚、今回の「支部だより」には加藤学園理事長様、渡辺校友会理事長様、「顔写真入り」そして山浦経営企画室長様には「キャンパスの全景写真」と共に寄稿をお願い致しました。更に、新しい会員の方々からも、多数の投稿を頂きました。そこで、今回は「第15号」と言つこともあつて、従来のA3一枚をA3二枚にし、「増刊記念号」に致しました。次に千葉県支部の方針として、1. 支部役員の実績 2. 支部

会員の増加 3. 三大支部（埼玉・神奈川・千葉）連絡協議会の継続 4. 支部だよりの継続発行 5. 東京千住キャンパス創設事業への協力としました。千葉県支部は、今後共、会員各位のご意見を基に「支部役員が一致協力」して、全国支部の中でも、最も充実して活気ある、そして、楽しめる支部になるよう、一層努力して参る所存であります。今後共、会員並びに関係各位のご指導・ご協力を切にお願い申し上げます。終わりにあたり、千葉県支部関係各位のご健勝・ご多幸を、ご祈念申し上げます。支部だより第15号発行にあつての挨拶に代えさせていただきます。

本学は今年で創立105年となります。新たな大学のビジョンとして「東京電機大学グランドデザイン」を策定し、その具現化のため諸施策を推進しているところです。なかでも教育・研究の新拠点となる東京千住キャンパスの創設は、グランドデザイン実現のための最大事業のひとつであり、今後の東京電機大学の飛躍の大きな礎となります。多くの卒業生が巣立った創立の地、神田を離れることは残念ではありますが、だからこそ余りある成果を出したいと考えています。卒業生の皆さまには、ぜひ新しい東京電機大学の中核キャンパスを訪れて頂きたいと考えています。また、入試につきましては18歳人口減少の影響で志願者対策に苦慮していましたが、東

ご挨拶

学校法人東京電機大学 理事長 加藤 康太郎



校友会千葉県支部の皆様におかれましては、松本支部長のもと会員相互の親睦と研鑽に励まれるとともに、本学園の発展にご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、本学は平成24年4月、新たな教育・研究の拠点として「東京千住キャンパス」を開設いたしました。これは学園創立100周年記念事業の中核事業として次の100年をみすえ、北千住駅東口徒歩1分の好立地に開設したものであります。

本キャンパスは、世界的建築家 横文彦先生の高適な設計コンセプトにより、省CO2、技術や高い防災機能など最新技術の粋を集めた未来型キャンパスです。さらに、アゴラやロッジアなど斬新な建築様式をも巧みに取り入れた高度な教育・研究拠点としての機能を充足しています。そして学生主役をモットーに、人間性豊かな学生生活を実現できる空間機能を備えた、先進的な都市型キャンパスです。

本学は今年で創立105年となります。新たな大学のビジョンとして「東京電機大学グランドデザイン」を策定し、その具現化のため諸施策を推進しているところです。なかでも教育・研究の新拠点となる東京千住キャンパスの創設は、グランドデザイン実現のための最大事業のひとつであり、今後の東京電機大学の飛躍の大きな礎となります。多くの卒業生が巣立った創立の地、神田を離れることは残念ではありますが、だからこそ余りある成果を出したいと考えています。卒業生の皆さまには、ぜひ新しい東京電機大学の中核キャンパスを訪れて頂きたいと考えています。また、入試につきましては18歳人口減少の影響で志願者対策に苦慮していましたが、東

京千住キャンパスの開設、また不況による理工系回帰現象もあり、志願者数は21,000人を超え、4年連続で大規模な志願者増を達成しました。

一方、就職につきましては依然厳しい状況が続く、本学においても苦戦を強いられましたが、「就職に強い大学」のブランドを死守すべく、全学挙げて就職支援策の強化に取り組んでいます。厳しい中でも何とか前年並みの内定率を維持しましたが、この就職に関しましては、とりわけ卒業生の皆様のお力添えが不可欠です。何卒ご支援、ご協力を賜りますようお願いいたします。

100周年記念事業・東京千住キャンパス創設事業募金につきましては、千葉県支部の皆様をはじめ、多くの方々から厚志を頂戴いたしました。おかげさまで、現在約13・1億円に達しております。厚く御礼申し上げます。引き続きのご支援を賜りますようお願い申し上げます。

最後になりましたが、千葉県支部と会員皆様の益々の発展とご健勝を心よりご祈念申し上げます。挨拶とさせていただきます。

ご挨拶

社団法人東京電機大学校友会 理事長 渡辺 貞綱



日頃より校友会活動にご理解とご協力を賜り厚く御礼申し上げます。特に貴支部は松本支部長のもと、講演会や見学会の開催に積極的に、会員の親睦と研鑽に励まれていることに重ねて御礼申し上げます。

東日本大震災から1年が経ちましたが、今年に入ってから大きな余震が起きているなど、未だに活発な地震活動が継続しています。あらためて本震の凄まじさを思いおこし、被災された方々に心からお見舞いとお悔やみを申し上げます。

さらに原子力発電所の事故は、放射能汚染、環境問題をはじめ、日本の経済・社会に極めて重大な影響をおよぼしており、事態収束にはまだ時間を要するものと思えます。

この様な状況下ではありますが、東京電機大学および校友会にとつて、今年は大変な節目の年でありませう。

ご存じのとおり、大学が神田校舎を手放し、新たな次の百年の発展を目指すべく北千住駅前に東京千住キャンパスを開校し、学園の歴史に残る大英断を敢行した年であります。

百余年の歴史を刻んできた想い出深い錦町校舎の閉館は、ここで学ばれた諸先輩方におかれましては感慨ひとしおのことと拝察いたします。

私にとりましては高校・大学時代を過ごし、その後の私の社会人としての原点に当たるこの校舎には、人一倍の愛着を持っておりまして、新キャンパスを見学させて頂き、新たな希望が満ちてまいりました。

東京千住キャンパスは東京電機大学が理工系私大でのトップレベルを目指そうとするブランドデザインの強い意志が感じられます。立派な校舎や充実した設備、さらに眺望の良さは誠に素晴らしい、希望に満ちた若き男女学生が集い、良き伝統のもと、新たな時代にふさわしい教育・研究が展開されることを大いに期待できるキャンパスであると思えます。

校友会としても皆様に支部総会などの機会に新キャンパスの見学ができるよう計画させて頂きますので、是非ご覧頂くことをお奨めします。

もつ一つの節目は校友会が新法人法に基づき、実質的な法人移行を実施する年になることです。評議員会ならびに総会において一般社団法人への移行の方針はご承認を頂いておりますが、今年中に移行申請を行い、来年度より新法人として踏み出す予定です。これに伴って定款の変更や大きな組織変更が発生します。あらためて皆様方のご理解とご協力を

頂きますようお願い申し上げます。

学園と連携して行っております東京千住キャンパス創設事業の募金協力では千葉県支部をはじめ、多くの会員の皆様から寄付を頂きました。厚く御礼を申し上げます。今年度末まで募金活動を続けておりますので、一層のご協力をお願いいたします。

大学の発展に合わせ、校友会は今まで以上に結束して会員の皆様のお役にたてる活動を進めるとともに、学園ならびに在校生への支援も増強していきたいと考えております。

皆様には、今迄にも増して格別のご協力・ご鞭撻を賜りますよう、宜しくお願いいたします。

結びにあたり、校友会千葉県支部の益々のご清栄と、会員各位のご多幸を心より祈念申し上げます。

平成24年4月東京千住キャンパス開設
「TDUルネッサンスと進化」
経営企画室長 山浦 登志夫

平成24年4月、北千住駅東口に東京千住キャンパス（100周年記念キャンパス）が



開校しました。教育、技術、地域の3つを基本にすえた創設理念「TDUルネッサンスと進化」を掲げ、「TDUブランドデザイン」のもと、本学中核キャンパスとして知の継承・発展の拠点にふさわしい、学生を主役とした理工系教育の理想、新しい大学像の実現を目指しています。

設計にあたっては、「学ぶもの、研究にいとむもの、訪れるものに、遊び」を与える場所を作り出す」をコンセプトに、主要4棟で構成され、北千住駅東口の将来の街づくりの核となることも期待される最先端の都市型キャンパスを具現化しています。すでに平成23年12月には産官学交流や創業支援を促進する東京千住アネックスも開設。東京スカイツリーにも程近く、本学の新たな飛躍を目指すとともに、東京イーストエリア発展の一翼を担います。

◆新キャンパスの主な特徴
テーマは、人、環境、安全、都市型キャンパスの未来形

北千住駅徒歩1分の都市型キャンパスとして、人と人とのネットワークの創出、最新の環境・防災技術の導入、積極的な地域開放など様々な工夫がされています。また情報インフラのプライベートクラウド化も同時に実現されるなど、社会からも注目されています。

- 【主な特徴】
- ◆現代版アコラとロッジア
 - ◆緑豊かな潤いある環境
 - ◆オープンで安全なキャンパス
 - ◆省エネ最新技術・ヒートポンプシステムを最大限活用／世界初の連結縦型蓄熱槽を採用／大学初 高効率エアフローウインドウ採用／省エネ照明、センサで照明・空調の無駄を省く／変動微風空調で風を上手に利用／情報システムとの連携／再生可能エネルギーを活用／省CO2技術の見える化
 - ◆防災対策・地震対策（免震・制震）／災害時の避難場所

*国土交通省「平成21年度住宅・建築物省CO₂推進モデル事業」に採択されました。

◆教育の展開

「TDUブランドデザイン」に基づき、実験・実習を重視しつつ、基礎教育、基幹専門科目の充実を図りながら大学院の充実・拡張を図るべく、準備もスタートしています。建学の精神・教育理念を尊重し、技術で社会に貢献する人材の育成に邁進して、理工系大学のトップランナーを目指します。

◆インフォメーション

東京千住キャンパスに「イタリアントマト」オープン（1号館1階カフェ）

『イタリアントマト cafe』がキャンパスにオープン。一般の方も利用可能です。キャンパス見学の後、一息ついてはいかがでしょうか。

営業時間：平日9：00～20：00、日・祝日10：00～21：00（※年中無休）

千葉県支部 第41回総会報告

常任幹事 市川 勝利

日時 平成23年6月11日（土）
場所 東京電機大学千葉ニュータウンキャンパス（教育棟2階 207教室）
11時より高橋幹事の司会で、情報環境学部

今野紀子准教授に講演をいただく。『色彩の効果で健康増進』をテーマに。色彩が暮らしに大切な要素であることを、最新の研究成果により紹介、積極的に生活の中に活用してほしい。この内容で、予定時間を超えて活発な質疑等盛況のうちに終了した。（12時30分）

12時40分、支部総会開催、堀岡副支部長の司会による。松本支部長代行の挨拶。母校百年のブランドデザインの具現化として、千住キャンパスへの最大限の応援と、「支部便り」と見学会」のなお一層充実した企画を心がける。さらに役員の実績と会員の増強に努め、活気のある支部を目指す。

東日本大震災から三ヶ月に当たるため、全員で黙祷を捧げた。



次に、加藤学園理事長の挨拶を小谷大学理事により代読。波辺校友会理事長は、学園を支援する校友会員の増強と一層意義のある活動をし、大きく発展できる組織作りを進める旨の挨拶があった。続いて、松本支部長代行が議長に選任され、議事が進められた。

・平成22年度 事業報告―田中副支部長、決算報告―鈴木常任幹事
監査報告―大塚監事
・平成23年度 事業計画案 田中副支部長、予算案―鈴木常任幹事
松本支部長代行が支部長に全員一致で承認

《会員からの意見》
・会計報告はもっと細部に触れてほしい。前年と金額が異なるところは、その説明がほしい。
・役員の変動については、議事に含め、承認事項にしたほうがよい。

14時14分、堀岡副支部長の言葉により閉会(懇親会まで)、記念撮影)
14時30分、教育棟2階食堂にて、喜多村副支部長の司会で懇親会が開催
石橋中岡副支部長の挨拶・小谷理事の乾杯
て開会、和気あいあい盛り上がり15時50分、高見沢同窓会副会長の閉会の挨拶で終了。
(今回の出席者は、来賓9名、校友会45名)

千葉県支部の歴史について

調査：平成二四年四月 支部長 松本 宏

支部名：東京電機大学校友会千葉県支部と称す。

支部所在地：この会は、事務所を県支部長が指定した所に置く(支部会則による)

設立年月日：昭和四六年四月一〇日

支部総会：第一回 昭和四六年四月一〇日、第四二回 平成二四年六月一日

発起人：並木 昭 大正一五年秋卒 池田 事夫 昭和四年春卒

山本 登 昭和二年春卒 藤代 年司 昭和二年秋卒

設立総会 開催日：昭和四六年四月一〇日

開催場所：千葉県労働者福祉センター

参加人数：三一名 (学園・校友会よりの参加者は不明)

歴代支部長 氏名 卒業年・学科 在任期間

初代 並木 昭 大正一五年秋電機 昭和四六年～昭和六〇年

第二代 山本 登 昭和二年春電機 昭和六〇年～平成八年

第三代 関 泰雄 昭和二年工専電機 平成八年～平成二年

第四代 小川 重二 昭和二八年春電機 平成二年～平成一六年

第五代 松本 宏 昭和三年一E 平成一六年～平成二二年

第六代 花井 卓郎 昭和三年一E 平成二二年～平成二三年

第七代 松本 宏 昭和三年一E 平成二三年～現在に至る

特記事項：千葉県支部の創世期は昭和二四年頃、東京電力当時は(関東配電)の千葉支店管内で電機学校のOBが校友会を立ち上げたとの事である。その頃の支部長は東電の支店次長等が就任していたが、転勤等が頻発し、支部の運営が困難を来し、会勢も衰えてきた。

そこで、(社)千葉県電業協会が支部長を引き受ける事になり、①東電ブロック：幹事 後藤 茂。②保安協会ブロック：幹事 沼沢友蔵。③関電工ブロック：幹事 藤再次郎。④商工ブロック：幹事 小森義郎。の四ブロック体制とし、千葉支部独自の会の為。運営費として、年会費を二千元に決定した。全員で運営・強化を図り、審議を重ね、紆余曲折を経て、上記の組織とされた。つまり、昭和四六年千葉県支部として、正式に発足することになった。その後、諸先輩の努力で、支部活動も会を重ねるにつれ、現在は下記の如く、安定且つ、活発に活動することが出来るようになりました。

一、支部総会の開催：今年第四二回を数え、公開講演会を同時に開催している。その会毎に「MR」設備、「構内の風力発電設備」等の見学も実施。

二、支部独自の「支部だより」を平成九年に第一号を発行し、今年で第一五号を発行することができた。

三、見学会：山梨県立リナモーター試走実験及び城山揚水発電所見学(一泊バス見学旅行)、銚子地区の風力発電設備の見学(商工懇話会と合同)、益子焼/登り釜の火入れ式見学と日光鬼怒川にて懇親会(一泊バス見学旅行)、首都圏初の大学「千葉ニュータウンキャンパス」の風力発電設備見学、成田国際空港設備研修、陸上自衛隊木更津駐屯地ヘリコプター部隊、シャープ研究所、東京電力富津火力発電所、電力中央研究所、COP東日本製鉄所等の見学会を毎年定期的に実施している。又、各種行事の中では、パソコン教室を三年連続して開催。校友会本部主催の評議員会総会、各種研究発表会及び産官学交流会にも積極的に参加している。又、千葉県庁多目的ホールで開催した、本学の情報環境学部と千葉県合同の産官学交流会にも積極的に参加した。

四、支部の年間行事としては、総会一回、見学会一回、役員会一回、常任幹事会四回を実施している。

五、現在、支部役員は支部長から顧問まで：三三名いますが、役員の中には、総会・役員会等にも出席されない役員が居られます。飽くまで「奉仕」ですから、強制は出来ませんが、夫々その役員には事情があると思われ、意見交換の場を設けて、一人でも多くの方が参加できるように努めて行きたいと思っています。

六、尚、先の常任幹事会にて、支部のホームページを立ち上げる賛意を得ましたので現在資料集めなど準備中です。そんな中、校友会本部で全国規模のホームページを作成する事が決まったとの事、連絡を頂きました。支部としても、その方向で協力して行きたいと思っています。

以上現況を報告いたします。

JFE東日本製鉄所千葉地区見学会報告

副支部長 安藤 志朗

今年度の千葉県支部の見学会は暮れも押し迫つてから、平成23年12月16日午後10時に開催。天候は、まあまあである。集合時間にも大変早い13時前に校友会の旗を出す。すると、支部の方ですか？と問つてくる。もう、参加者は集まっているのである。びっくりに、参加者が期待している証拠である。集合場所は蘇我駅西口ロータリー。目の前は交番。今回の見学会先は、JFE東日本製鉄所千葉地区施設。楽しみである。昨年に次いでの大参加者34名である。参加者は、午後2時10分前に全員そ



東京電機大学校友会千葉県支部 平成23年12月16日
JFEスチール東日本製鉄所(千葉地区)見学会

ろつたので、幹事は楽なものだった。さあ、これから東日本製鉄所千葉地区施設の見学である。千葉支部始まって以来の歩いて10分のところを往復バスを投入したのである。何か？それはこのJFEの製鉄所が広大なため、歩いての見学は不可能との事、また製鉄所自前のバスは、出せないとの事、そのため、バスをチャーターしての開催となつてしまった。結構良い東都観光バス。皆さん喜んで。乗り込むと、早速、松本支部長挨拶。その後日本日の行程を案内する間に、見学センターに到着。見学センター長の奥平計造さんわざわざのお出迎えである。挨拶もそこそこに、大会議室で、この施設で製品化している説明を受ける。ビデオで見ても、大変大きい工場。広さは東京ドームのおよそ164個分、デスニールランドだと10個分だそう。面積約766万㎡。JFEは年間2800万トンの製鉄能力を持つが、この千葉地区製鉄所は薄板専用工場として400万トン弱を担当している。具体的な製品は、缶ジュース、車のドアなど。メインはホンダと日産だそう。1日最大粗鋼生産は1万トンでも、工場の形態が広すぎて、また種々に分散しているため、次の工程に持つて行くのが大変との事だった。この社員総数は2000名、売り上げは年間4兆円。

何でも、95年から徹底した省資源と省力化を実現、人件費も大きく削減、「21世紀の都市型製鉄所」として成功したモデル工場。面白いのは、JFEが取り囲んでいる中に東電の千葉火力発電所が存在している。発電もしている。余剰電力を東電に即売却出来る体制である。今回の見学先の中心は西工場。そこは熱間圧延がメイン。凄いのは、ホットストリップミルの歴史を変える革新的な技術で、「エンドレス圧延プロセス」のほとんどが無人の行程で有る。また、ステンレス精錬の常識を超える溶融還元法を開発し、運用中との事。見学した高級薄鋼板製造工程は、鉄

鉱石と石灰を主原料として、高炉・転炉・圧延の製造工程で鉄鋼製品を生産する一貫製鉄である。なかでも、大量に消費しているのが水、鉄1トンで水30トン消費している。その水の供給は、汚染度ワーストスリーの印旛沼から。何しろ中国が世界トップの年間6億トンを生産。日本は1億トンにしかならないそう。そのため一度火を入れると壊れない限り一生稼働を続けているのだ。これは驚き、都の清掃工場でも年間数ヶ月は停止してメンテナンスするが、高炉は燃やし続けているとは。でも、溶鉱炉って1千億円も建設にかかるとは金くさい虫ですね。そのため、こも新聞を賑わす記事が多いようだ。発電量も半端では無く80万キロワットの半分を隣の東電に売却している。高炉では常にガスが発生しているのだが、使いきれず殆どを煙突から大気中に放出し、燃やし続けているらしい。良く火災が発生するものこのせいかな？見学者も年間28,000人規模、土日は駄目なので、毎日でも1200名を引き受けている。だから、説明もどうに言っている。

介護制度の充実には疑問がある

鈴木 修一

人間は誰もが長生きをしたいと思うのは、そこより沢山の生きがいを見出したいからであつて、介護されたらなどとは思っていない筈である。しかし、今メタボリックシンドロームという診断の一例があるが、テレビでそうした診断場面が映ると、それを他人事のように薄ら笑いを浮かべ、結果の重大性を無視するかのような態度をとる人が多い。実際に肥満を解消できずにあきらめている人達も随分いて、その反動なのか安易な生活を享受してしまう。そして医療の進歩は著しいと感じるが、こうした生活習慣病を治すことには積極的でなく、結果として介護を必要とする人達を作り出していく。

為政者もまた、この介護要求度の高まる中で、これを是認して施設の充実、介護人の養成、サポート機器の開発支援等の政策に力点を置いて、先々はこれを世界に誇れる輸出産業として育成したいとか、見当はずれな事を言っている。そして人の晩年は長い介護生活

を経て死に至るのは已む無しといった風潮であって、嘆かわしい事と思う。

ここでは、既に介護されている方々や、待機している方達には触れる余裕はない。いわゆる生活習慣病予備軍の人達への提言である。

そこで半世紀程前を顧みると、主婦の一日は、買い物かごや手提げ袋等を持って、連日のように街中に点在する各種商店を歩き回って、5、6キロはある手荷物を持ち帰り、家ではまだTVの娯楽性や家電の普及度が低かったので、休むこともなく家事に奔走していた。旦那もまた住居環境が良くなかったので通勤時間も長かったし、その上、朝夕のラッシュ車両では格闘をするかのように揉まれていた。

過去には食するために、労力や思考力を駆使することを強いられた。しかし今ではそれ程の時間も努力も要せず、幾らでも食欲を満たすことが出来る。この食と労力の不均衡は、地球上の生物が全て、長い時間をかけて地道に進化してきた動静を裏切るものであって、健康が保てなくなるのは当然であろう。

介護人の増加を介護師さんと話したことがあるが、寿命が延びたので仕方の無いことと、軽く言っていた。これは長寿は何もめでたくない。今、日本人の平均寿命は83歳であるが、少なくともこの平均寿命までは、誰もが自ずから判断し行動する義務があることを強く意識すべきである。

二、三十年先には、若者一人て一人の老人を負担し、その先では一人て一人を負担するという年金給付の予見があるが、こんな理屈を容認したら、将来日本人は絶滅危惧種になってしまつ。平均寿命が83歳なら、労働作業から開放されるのは、せいぜい平均寿命までの十年間位が限界で、今と言うなら73歳位までは若者と共に働ける思考力と体力を維持する必要があつて、長生きすることへの責任を果さなければならぬ。

人間には誰でも怠惰な性質があつて、強い

られないと出来ないことが多い。運動や行動の活性化に努めねばならないと思いつながら、それを全つしよつとする意欲のある人が少なく、肥満等の生活習慣病へ陥る事に甘んじている。

こうした前提でこれからの健康維持の施策を企図してみると、やはり国が前面に出て、国民の健康管理を規定すべきであつて、一案を示せば公定の医院でメタボリックシンドロームと診断された人は、それを国の管理台帳に登録されると同時に、その医院で食事や運動等のメニューを作つて貰い、正常な体位に戻すための努力目標が定められる。もし努力が足らずに決められた期間に回復が出来なかつたら、ペナルティとして健康保険及び介護保険料金の値上げとか、生命保険の加入条件厳格化等、罰則規定を設ける。

一方現状で、喫緊の介護施設の増設等ともかくとしても、先手をとる意味で介護対象者の激減を図るための「治療施設」が絶対に必要であつて、負担をそれ程感じずに健康を取り返し維持出来る設備、運動用具を整えて、理学療法士や医師等の相談要員を有機的に配し、合わせて社交の場となるような環境を整えた所を豊富に揃えることが肝要となる。

以上は方針の筋書きを単純に表記したのであつて、実際には各種の条件や、医学的見解や、運用方式等、全体的に納得出来る高度な制度設計が早急に求められる。

この実現に対しては、その鬱陶しさに自由の束縛とか、余計なお世話とか、反発もあり得ると感じるが、でもこれは生活の向上とか、文明の高度化等の間こえの良い美名にのつて、我々自らが永い期間選択してきた体たらくのツケと考えるべきであつて、このツケを返さないと誇りる日本の原点には戻れない。

そして原点に戻しつつも、次の理想の世界を描いてゆきたい。教育という言葉があり、食育という言葉も使われるようになった。体育という言葉もあるが、これが教育の中に含

まれていて肩身の狭い思いをしていて、これを教育と対当の位置づけとしたい。出来たら学校の外に出してしまつて、上記した「治療施設」をこの時期までに仮称「訓練校」として発展させたい。学校に行くだけでなく、訓練校に行くことも国民の義務に含ませる。

訓練校を実地する上において、コーチやトレーナー、医師等専門家を豊富に配置して、スポーツを中心にして、その理念と実技を学齢期の間に少なくとも一つは体得させる。その後一生楽しめる環境も充分に揃えたい。

我々多くの者が、体の自由が利いて軽快な活動が出来るときには、難題にも前向きに対処できる。そしてその時の達成感が忘れられず、次のために体力を維持し、ストレスを解消しようとする好循環も生まれる。そうした中では邪念もまた生じにくい。このような生活環境を是非とも造りたい。

山々の想い出

鈴木力

私は山形県の置賜盆地（米沢盆地）の山里に生まれました。置賜の最上川上流は吾妻連峰に源を発し、飯豊連峰、朝日連峰（月山）、湯殿山、羽黒山を含む）、蔵王連峰、そして烏海山の水を集めて酒田より日本海に流れる。

五月雨を集めて早し最上川

山紫水明の地で育ち、東京に出てからは山々が懐かしく、奥多摩や奥武蔵そして尾瀬等とハイキングを続ける事になった。丹沢の一の塔、二の塔、三の塔と馬鹿尾根を歩き、丹沢の検洞丸（1601m）に出掛けた時、夕方に河川敷にテントを張りましたが天気は急変、ポツリポツリと雨が来たので、近くの山小屋に泊まりました。

翌朝起きたら、川は濁流でゴーゴーと音を立てて流れ、命拾いを経験しました。

その後、八ヶ岳の赤岳を目指す。夜行で行き、泉界尾根から登り、恐怖の鎖場を渡り

（私は高所恐怖症）頂上近くは、這松に掴まりながら登頂。ふと見ると4〜5m先に茶と白の斑模様雷鳥2羽が、スッスツと這松の中に行くのが、大変可愛く今も記憶に残ります。

帰りは反対側の下山道を降りたせいか、ケモノ道に入り遭難の一手手前迄いき、困っていた所（山の日暮れは早い）目の前にヒヨックリ白い犬が現れたのでその後を付いて行つたら下山道に出る事が出来ました。ホットして辺りを見ると、先程の白い犬は影も形も在りません。お婆ちゃん子だった私を、白い犬に形を変えて誘導してくれたと今でも思っています。

又、穂高連峰に仲間7人と泊3日て出掛けた時、河童橋を渡り梓川の大正池に野宿、翌日は朝から夜霧で濡れた重いテントを背負い、景色を見る事もなく、地面を見ながら夕方穂高山荘に辿り着き、テント張りの途中、上高地に雷雲がかかり、雷がピカピカ光るのが見下ろすことが出来、小雨が下から上に降ってきました。翌日は間近く槍が聳え、四方の山々を見ながら下山、松本経由で無事帰京。

悔いが残るのは、山頂から日光を拝もうと富士山に登山した時、8合目の山小屋に泊まったが、目を覚ましたら、お日様が頭の上に来ていて、帰りは砂走りをスキーの要領で一気に下山した思い出が有ります。

最後に、三浦半島縦走で、鷹取山（岩登りのメッカ）、大楠山、そして三浦富士と、振り返ると三浦富士が黄緑色に春霞の中に浮かんでいたのが印象的でした。

夏近く緑に煙る三浦富士

震災から一年。私の想いと

谷本 金吾

この度、支部だよりの原稿を依頼され、私になにが……と戸惑つばかり、



何を書いたら

と趣味、大学時代や地域活動等様々考えたのですが、これとって何もない自分に、とうとう仕事人間、ザ・サラリーマンになってしまったのだから、何もない自分に落胆してしま

ました。高校時代までの部活、水泳も、ほとんどする時間がないのが現状。逆三角形だった体も、みるみる台形に……これが現実と日々、家族の為に働く毎日です。

昨年3.11「東日本大震災」以来、世の中は大きく考え方、心を変えざるきつかけになった人は多かったと思います。私も人との絆、地域防災、自然環境について等を学ぶ機会があり、一年たった今、思つことを書かせて頂きます。

3.11そのとき皆さんはどのようにして生きていきましたか？

私は、新宿の会社に戻る途の四ツ谷駅で地震にあいました。あまりにも激しく長い揺れに驚き、右往左往するしか出来ませんでした。駅を出て会社まで歩く中、建物の破片や、アテナがぶら下がっている光景を見て、ただ事ではない事を思いました。その日はもちろん帰宅困難者。妻にも連絡がとれず、夜中動き出した、都営新宿線に乗り何とか、本八幡へそこから船橋まで徒歩で帰りました。途中のコンビニには、食べ物といえば、缶詰が数個あっただけでした。ポケットにあった鉛をかじり、家に着いたのは、午前四時半。家に着いたとたん、妻が「災害伝言版みた？」「私は？」「なにも知らなかった。普段からの災害に対しての意識がなかったことに反

省させられました。

翌日、妻の実家周辺(船橋市内)を確認にいったところ近所では、激しい液状化でマンホール、配管等が起伏していました。この現状を見て地震の恐ろしさを実感致しました。東北地方中心に太平洋沿岸は甚大な被害に見舞われました。また福島原発も今尚、多くの問題を抱えたままの状態であります。心からお見舞い申し上げると共に、早期、復興を願つてやみません。

以前にNHKの「クローズアップ現代」で、「釜石の奇跡」を取り上げられました。3.11の大震災で大津波が釜石市街沿岸を襲つた釜石の小中学生は家に帰宅している人、遊んでいる人それぞれでしたが、「防災訓練の心」を生かしほとんど犠牲者を出さなかったといふ。(99.8%が生存)

どのようにしてこの「奇跡」が成し遂げられたのかを紹介していました。

釜石市は10年前から群馬大学大学院の、片田教授とともに防災教育を取り組んでこられた結果であるといふ。教授が教えてきた3原則は、①想定を信じるな。釜石にはギネスに登録された世界一の堤防があり「これで大丈夫だ」という固定的考えを捨て逃げる事だ。②ベストを尽くせ。どんな状況でもベストを尽くす、そつすれば助かる。③率先避難者たれ。教授は「君が逃げれば、みんな逃げる。率先して逃げる事が多くの人の命を救うことにつながるんだ。」この原則を見事に実践されたことによつて奇跡が起きたのだと「先入観や想定にとらわれず、常に最善策をとれるよつベストを尽くすこと……」

社会においても自分の生き方においても通じる哲学のようなものと言えるかも知れません。

また、親と子が、家族が別々のところにいるても、てんでんばらばらに逃げるといふ。東北地方では「津波でてんでん」といふ言葉があるそつだ。家族の絆を断ち切れと言つ

ことではなく、絆の上で信頼を加えて「うちの子はぜったいに逃げていから」と子供を信頼し親も逃げる。ばらばらでもお互い信頼し、家族を信じてそして、自分の命を守る事によつて、最終的に家族を守る事が出来る。何か新しい価値観のようなものがそこにはあります。

今、世間では、この首都大震災は70%必ず近いうちにあると報道されています。さらに震度七強という巨大地震の可能性とも言われています。そんな中、まずは、自分自身かとの思いで、防災に対する準備が不可欠と思ひ、普段、「てんでん」な我が家ではあります。一致団結し防災の準備を致しました。いつても逃げれるように、リュックサックに防災グッズと3日分の食料を詰め玄関に置きました。決して山登りではありません……。

また今度自治会で防災訓練があります。このことを話伝え語り、地域のすべての人と信頼と励まし絆を深め広げて行くことが大切だと思ひます。

東京電機大学の北千住の新社舎も耐震構造と伺っています。是非、支部総会では建物の震災対策を見学させて頂ければと思ひます。楽しみにしております。つたない話ですいません。



自慢したと思つた田の地

須田 猶興

私は東九州の大大分・別府が大好きで皆さんに、広大な大自然の美しさや多くの温泉地、美味しい肴を紹介させて戴きたいと思ひます。

この地域に赴任したのは昭和四四年から七年間で、丁度日本が高度経済成長のまっ只中でした。目的は昭和電工の大大分石油化学コンビナートの建設で横河電機のコンピュータ、

工業計器類の受注と計装工事スタートアップ作業の請負でした。エチレンプラントの第一期、第二期工事が施工され多くの誘導品プラントも完成し大量の石油化学製品が生産されました。

昭和四六年には広大な埋立地(4km×2km)に新日本製鐵の建設が始まりました。第一高炉、第二高炉の建設です。連続熱延工場、厚板工場、コークス工場、焼結工場等が舞めいていてそのスケールの大きさには驚きの限りでした。この広大な建設現場で仕事を順調に進めるには施工場所の把握や人間関係を作るのに苦労をしました。

建設現場では多忙な毎日でしたが、激務の間の休日には、大分の海でキス釣りをしたり別府温泉に行ったり、車ですと簡単に湯布院や阿蘇国立公園にも足を伸ばせます。

別府湾や豊後水道の魚は美味しく、有名な関蔞、関鯖、城下カレイが有ります。又逸品としてぶぐの肝が食べられます。肝は条例で北九州と四国の一部でしか認められていまして希少な肴と言えます。稀に常連からぶぐの生白子塩焼きをとの声がかかりました。この珍味は希少価値で他では食べられません。

私は食べず嫌いで、ある時魚屋にぶぐが一袋二百円程度で売られていましたが生臭いゴムを食べている様で好めませんでした。当時は料亭で出されても食べずに仲間譲っていましたがある時その旨さには驚嘆させられました。それがぶぐ刺しの病み付きの始まりです。

東京ではぶぐなどには中々手が出来ませんが、店の前を通ると当時を思い出します。

お酒も九州に行く前は日本酒とウィスキーでしたが地元で慣れると嗜好が大きく変わります。すっかり焼酎党になり麦、芋焼酎の香りが離せなくなりました。翌日の体調にもよく又大分産は全国的にも有名に為つて来ているようです。

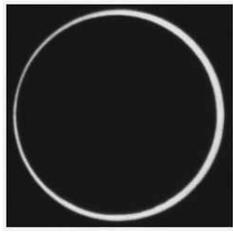
ゴルフ場も関東では当時遠く高額で混雑で取れない時期もありましたが、こちらは近場

に空いている良いコースが多々あり苦労がい
りませんでした。
こんな自慢話ですが、是非一度東九州に
行って見たいなと切望しています。

5/21の金環日食、ご存知でしょうか？

安藤 志朗

千葉県支部の皆様、日食と言つのを、驚に
なつた事ありますか？私は、先の2009年
7月22日、皆既日食を屋久島で見ると、
宮之浦岳に登りました。登山は素晴らしい
物でした。小屋泊まりは、厳しいのでテント
を持参して、実行しました。でも、環境省の
職員さんから、テントは駄目、小屋に泊つて
ね、と入山届を出す時に、念を押されました。
実際は、この道の大先輩からの助言もあり、
岩屋の中にテントを張って屋久島全山縦走を
しました。これが成功したので、きつと皆既
日食も成功裡に見る事が出来ると思つていま
したが、残念ながら、当日、屋久島は曇りて、
真つ暗にはなりませんが、皆既日食は見れま
せんでした。鹿児島では見れたそうです。て
も、今回は、3年ぶりに再度日食が見れます。



そもそも「日食」は、月が太陽の前を横切
るために、月によって太陽の一部(または全
部)が隠される現象です。太陽が月によって
全部隠される時には「皆既日食」、太陽の
ほうが月より大きく見えるために月のまわり
から太陽がはみ出して見えるときには「金環
日食」。太陽の一部だけが月に隠されるとき
には「部分日食」と呼ばれます。今回は日本
でこの「金環日食」が見られます。相対的に、
太陽が地球に近く、月が地球から遠いときに

日食が起こると、太
陽によってできる月
の影は地球の表面ま
で届きません。この
よつな場合、月の影
の延長上の地点には、
太陽の縁からの光だ

けが届いて金環日食が起こり、そのまわりの
地点では部分日食が起こります。日食は、見
る場所によって、どのくらい深く欠けるかも
違います。今回千葉県では、2012年5月
21日の金環日食となります。次は2030年
6月1日の金環日食です。それは、北海道だ
けです。また、この次に日本で皆既日食が見
られるのは2035年9月2日です。中部地
方の一部と関東地方の北部で観察すること
ができます。では、今回の金環日食はどのよう
に見えるのかと言つと、ポンチ絵のようにな
ります。会員の皆様のご住所でご覧いただけ
ますので、是非とも5/21、朝6時半過ぎか
ら屋外に出て、その感激をともに実感されま
せんか？ 当日の朝6時半過ぎから9時まで
の天体ショーを楽しんでみて下さい。でも次
の注意事項は必ず守って下さいね。

1. 太陽を直接見ないこと。

1秒足らずでも太陽を直接見ると、目に大
きな障害が残ってしまうことがあり、失明の
恐れもあります。安全に太陽を観察するため
日食グラス等(トイトなどで200円程度で
販売中)を使用すること、長時間観察しない。
続けて見るのは2〜3分。もし目に違和感や
疲れなど目の異常を感じたら、すぐに観察を
中止。

2. 望遠鏡、双眼鏡での観察は駄目。

望遠鏡や双眼鏡での観察はタブー。絶対に
おやめください。日食グラスと組み合わせ
ても絶対に駄目。

校友会員の航空人

黒澤 昌弘

校友会千葉県支部の皆さん成田国際空港会
社(NAA)の黒澤です。平成18年12月に千
葉県支部役員の方々に私達の職場、成田空港
を見学して頂きました。空港の電気設備、通
信機器の整備、それに日本航空の磯崎さんの
案内で整備中の旅客機等を見学して頂き、成
田市内での懇親会には空港勤務の校友が参加

して「航空人ここにあり」と心意気を見せた。
そのメンバーに声をかけ投稿することにしま
した。内容は各自任せのためばらばらになっ
てしまいました。

「最近卒業生の入社がありませんでし
たが、今年度NAAに1人、以前空港見学会
の際にお世話になったNAA関連会社で電大
OBの社長がいた(今は退職しています)」「空
港情報通信株式会社」に1人入社しました。
皆さん年配になってきており、若手にバトン
タッチの昨今です。

そんな私の近況ですが、昨年役職定年とな
り雇用延長で勤務しています。NAAは空港
の管理・運営というところで、卒業生は主に運
航、ターミナル設備、施設関係の計画・維持
管理・更新・運用業務などにかかわっています。
私的には後半特に事務職的な総務系の仕
事に携わって、国際空港特有の皇室、国公費
等の接遇・便宜供与、洞爺湖サミットの日本
受け入れなども担当し、スタッフの一員とし
ていい経験をさせてもらいました。現在は、
運用情報センターという空港のあらゆる情報
の集約・発信ならびに緊急時の対応などを
行っています。ここはセキュリティが厳し
く、通常見学はできない場所になっています。

国際空港間の競争も激化し、いままでのよ
うには行かなくなっています。ご存知のよ
うに関西圏では、伊丹空港と関西国際空港
が経営統合です。成田空港では今、NAAの
将来の大切なよきパートナーになるべき、近
距離国際線並びに、国内線充実のためのLC
C(ローコストキャリアー：格安航空会社)、
BJ(ビジネスジェット)用専用ターミナル
の新設をし、潜在需要の掘り起こしを図って
いく計画であります。

是非、校友の皆さんもますます充実した国
際線・国内線、並びに街中の大規模ショッピング
モールにも遜色のない成田空港をご利用
になって下さい。
仕事以外では、趣味が高じて旅行主任者の

資格もあることから、あちこちに旅行してい
ます。

役職定年になってから、前より時間が取れ
るようになり行く機会も増えていますが、体
がだんだんいつときかすで、若いころのス
キーに山登りと、今思えば剣岳縦走や温泉と
いっても仙人湯、高天原温泉と5日ぐらいの
縦走も過去の話です。今はもつぱら車で行け
る温泉です。

航空機のナビを行うNAA航空無線と航空
灯火担当のそれぞれ卒業生からも執筆をお願
いしたのですが、締め切りに間に合った航空
灯火・電源システムの運用・保守を行っている
佐久間幹雄さん、日本航空OBで現在はJR
ANSA(航空保安無線システム協会)で運
輸多目的衛星を使った航空管制システムの業
務についている磯崎栄寿さんとNAAから国
土交通省に出向中で航空障害灯・空港の航空
灯火・電源システム等の基準作成業務につい
ている大嶋孝文さんからの投稿に絞りました。

労を惜しまず(破綻会社OBの独り言)

篠崎 栄寿

1971年夏、新聞の求人欄に日本航空の
求人広告が目にとまりました。その頃、私は
目黒区にある電電公社(現、NTT)の多重
通信回線網の基幹中継所に新人として勤務し
ていました。

当時の私は、船で世界を巡りたいという気
持が心の片隅にあり、密かに転職を考えて
いた時代でした。飛行機で世界を巡ることが
出来るかも知れないと思い、飛行機には興味
がなかったものの応募しました。このような
単純な動機で日本航空に入社することになり、
1972年4月に航空機の航空電子(アビオ
ニクス)システムを整備する整備工場という
部門に配属されました。航空機の整備は、飛
行機を整備するシップ(Ship)整備の部
門、アビオニクスシステムやエンジンなどの
コンポーネント又は部品を整備するシヨップ

(Shop) 整備の部門に分類される。私が配属されたのはシヨップ整備の部門でした。ジャンボジェットB747型機(クラシックジャンボ)導入の翌年に、ジャンボジェット導入に伴う整備要員として日本航空へ入社し、そして、クラシックジャンボB747のラストフライトとなったホノルルー成田のフライト後の退役を見届け、2009年10月に定年退職となりました。正にクラシックジャンボと共に歩んだ会社生活でした。

この会社生活の中で私に大きな影響を与えた先輩が二人いました。一人はアビオニクス整備(シヨップ整備)のSさんです。物事を論理的に分析して判断し、いつも沈着冷静に行動する方で、強い信念を持って行動する方でした。理屈っぽいとして敬遠する人もいましたが、労を惜しまぬその行動力は私にとって新鮮に写りました。知識も技術も未熟だった私にとって、Sさんは雲の上の存在であり、以後、アビオニクスエンジニアとしての目標となった方でした。

もう一人は、シップ整備部門のKさんです。Kさんは飛行機を定刻に出発させるため、常に的確な整備を心掛ける飛行機屋でした。当時導入されたジャンボジェット機には当時の最新技術を取り入れた航空電子(アビオニクス)システムが搭載されていました。Kさんは交代制勤務の合間に、航空整備士が整備した飛行機に取り付けてあったアビオニクス機器の修理結果や技術情報を得るために私の職場に頻りに足を運んでいる方でした。アビオニクスの修理結果や技術情報を航空整備士の仕事にフィードバックしてシップ整備の職場の整備スキルの底上げをしようと自ら動いている方でした。

二人に共通するのは、労を惜しまず動くことでした。日本航空は半官半民の会社として存続した経緯があるため、自分のテリトリーを外れて他の職場に足を運び技術的な意見交換をし、それを職場のスキル向上に役立ててよ

うとするこの先輩二人の後ろ姿は極めて新鮮に写ったものでした。

この二人の先輩からは「労を惜しむな」と直接指導されたことはないけれど、真摯に仕事に取り組む二人の背中を通して、私の仕事に対する考え方、やり方、そして行動に大きな影響を与えました。以来、「労を惜しみます」は私のモットーとなっています。若いころは「自分の職域あるいは責任範囲を超えた行動を取っているお節介なヤツだ」と誤解されたこともありましたが、しかし、この行動は年を積み重ねるに従い、社内のみならず社外においても人との繋がりが広がり、良い結果をもたらすようになったのである。一例を挙げれば、労を惜しまず動いてきたことが、成田空港の航空局、成田空港会社及びその関連会社を含む官民一体となった無線技術者の情報交換グループに発展しました。この仲間との情報交換は私の航空機の整備及び運航に対する知識、技術力の拡大に繋がりを、仕事の幅が大きく広がる結果となりました。

しかし、残念ながら、経営が傾いていた日本航空は私の定年退職後に破綻に至り、ベテラン社員がまとめて退職せざるを得ない事態になってしまいました。今は航空業界での生き残りを賭け、安全運航を維持しながらも効率的な経営が追求されている。そして、その取り組みが奏功して利益を出せる企業体質が出来上がりつつあるように見えます。会社が破綻し、残った中堅及び若手の社員が会社更生に懸命になって働いている姿には胸を打たれるものがあります。しかし、効率化が求められるあまり結果を出すことに精一杯で、気持ちに余裕が失われているようにも見受けられる。このような時にこそ、労を惜しまず何事にも積極的に取り組んで頂きたいと切に思うこの頃である。

アビオニクスシステムの整備に携わった一人として感じることは、航空機の安全を維持するには整備品質を維持向上させることが必

要であり、このためには整備士又はエンジニアの技術力の維持・向上が欠かせません。この技術力の維持・向上を図ることは航空会社に限らず、どの業界においても変わらない筈です。

空港施設も日々新た

佐久間 幹雄

昭和53年の開港時、成田の航空保安照明施設は日本で初めてのCAT-Ⅱ運用が可能で、最新の設備で構成されたものでしたが、それから30年以上が過ぎ、現在では運航レベルがCAT-ⅢB運用とさらに高められた航空灯火システムや変電所機器施設に更新され、当時の施設のほとんどはなくなってしまいました。

会社人生で残り時間が少なくなりまして「今は昔」というやつが頭をよぎって、老化に拍車がかかりそうです。

※CAT-Ⅲ(滑走路の運航カテゴリ)施設・気象条件等から滑走路に着陸できる段階を示す。

バイクと共に

大嶋 孝文

大学時代に親友のバイクに跨って以来、バイクの素晴らしさにはまり、数々のバイクを乗り継いできました。北は北海道、南は鹿児島まで、また高速道路から農道、砂利道に至るまで様々な道を走りました。「人生」をいろいろな事柄に例えられるように、バイクにもまた例えることができます。バイクで道を走ることは、人が人生を歩むのと同じように思います。

バイクで旅をすると、特にそれを感じられます。天気が晴れの日があれば、雨の日があれば、雪の日があれば、台風の日があります。私は、台風の日にはバイクに乗った経験があり、すごく怖い思いをしました。でも、何とか安全且つ慎重に運転し、堪え忍んだ後には、台

風が過ぎ去った後の静けさと晴天が待つおり、何とも言えない解放感と爽快感を感じることが出来ます。きっと、バイクと音楽を共にしているという一体感が感じさせるのかもかもしれません。

「おまえも耐えたな、バイクよ」みたいな感じ)そんなバイクとも、事情により、ここ最近では跨っていないので、これから良い季節にもなりますので、ちょっと無理して都合を付けて遠出をしてみようと目論んでいる今日この頃です。

千葉県支部総会と見学会及び懇親会のご案内

日 時：平成二十四年六月九日(土) 十四：〇〇 受付十三：〇〇

会 場：東京電機大学 新東京千住キャンパス

◎第四十二回総会。 時 間：十四：〇〇～十五：〇〇

◎見学会：同新キャンパスの見学 時 間：十五：〇〇～十六：三〇

◎懇親会：一階大ホール 時 間：十六：三〇～十八：三〇

会 費：三、〇〇〇円

*今回は見学会と懇親会を「埼玉県支部と合同で実施します。

*ご多忙の事とは存じますが万象お繰り合わせの上是非ご出席下さいますようお願い申し上げます。

編集後記

「千葉県支部だより」一五号を発行する際に「だより」の充実発展を願って八頁の紙面にしました。今回も多くの方から沢山の原稿を頂き紙面を飾る事ができました。有難うございました。また今回掲載出来ない原稿がありました。次号に掲載をしますのでご勘弁をお願いします。次回もさらに沢山の原稿をお待ちしています。 副支部長 田中 豊明 記